

ハイスクールエクストラヴァDxD～転生せし者達

カオスザイン

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

「良いぜー！…俺が…俺達が屑転生者共を残らず駆逐してやるよ！」

ハイスクールD×Dの世界で転生を果たした館風 瑠雨也は何かが違うと感じる。

そこは多数の転生者が入り混じった世界であった。

*注：使用作品上かなり色々な意味でエグイ描写もあります。

それでもという方は是非企画にもご参加下さい。

目次

プロログ&キャラ設定	
転生せし時	1
キャラ設定集	3
旧校舎のディアボロス編	
EPI「転生を果たしたけど…」	16

プロローグ&キャラ設定 転生せし時

「……zzz」

「目覚めよー」

「今の声は…ってなんだ此処は!?…」

声が五月蠅くて目を覚ました俺は驚く。

俺か？俺は館風 溜雨也。

普通…ではない自他共に認める重度のアニメオタクの24歳だ。

さつきまで自室で寝ていた筈なのだが…目の前には白い空間が広がっており黄金の衣装を着た御爺さんがいた。

「覚えておらんのかの？」

「へ?…ま、まさか…」

俺は御爺さんにそう言われてはじめて記憶を辿ってみる。

「そうか…そういえば俺は…」

確か女子高校生の登校列に突っ込んでいきそうな居眠り運転している乗用車に遭遇して思わず飛び込んでいってそれで…。

「思い出したかの？」

「ああ…御爺さんはもしかしなくても神様なのか？」

「そうじゃー!」

「やはりか…一っだけ聞きたい事がある。

あの子達、女生徒達は一体どうなった？」

「…」

「爺さん?…」

俺が救ったはずの子達の安否を聞くと神様はどこか浮かない表情をしていた。

「君が突き飛ばしたと思っていた子達の何人かは車に巻き込まれて亡くなったんじゃないよ…」

「んなっ!?…」

そんな!?…間に合わなかったとでもいうのか!?!…

「だが安心せい…その子らも儂がお詫びを兼ねてしつかりと転生させたからの」

「そう…か…」

悲報に驚いたがアフターケアがしつかりしているようだ。

とりあえず俺は一安心する。

「それで…俺にも転生の権利があるという事か？」

「そうじゃ。」

ただし特典は三つ迄じゃ！」

神様にそう言われ俺はしばらく思案し答えた。

「ううむ…そうだなならば一つ目は転生前の記憶を引き継ぐ事だ」

「ああ、それなら特典にはカウントせずサービスで付けてやるぞい？」

神様にそう言われ訂正して続ける。

「なら訂正だ。」

一つ目は俺が好きなおえ…ゲフンゲフン…ギヤルゲーブランド「BlackCyc」作品関連の力を使えるようにしてほしい」

「い、今のは聞かなかった事にしといてやるぞい…」

神様に哀れみの目で見られてしまった。

畜生目！変態で悪いか?!…

「…続けますよ。二つ目は一つ目にも関連する事なんです俺の身体能力を「MindEdeBlood」の七瀬しずるにして欲しいです。

それと最後の三つ目についてなんです…いざという時の為に保留にしておいてもらえませんか？」

「受け賜わったのじゃ！では今世を目一杯楽しむのじゃよ！」

神様が合図すると俺は黄金の輝きに包まれて空間から消えた。

「あ、転生先の事を告げるのをウツカリ忘れておった！…まあ良いかの。」

その世界は「ハイスクールDXD」の世界じゃ…じゃが儂や他の神が転生させたは良いが世界を滅茶苦茶にしようと企む悪しき輩もある…これはほんの儂からの特別饞別でキャラも入れてやった。

お主の知恵と勇気と力でどうか世界を救ってください！…」

神の爺さんゼウスはそういうと転移した。

キャラ設定集

館風 溜雨也（かななぎ るうや）

事故死し「ハイスクールDxD」の世界へと転生した青年。

生前はかなり重度のアニゲーオタクであり今世でもその知識をいかに発揮して原作介入&屑転生者駆逐に日々精を出している。

特典は「BlackCyc」通称ブサイク関連の力とその内の一つ「MindBlood」支配者の為の「狂死曲」の主人公である吸血鬼の力を分け与えられた七瀬しずるの身体能力。

少女の生き血を吸血する事でトンデモパワーを発揮出来る。

残りの一つは現在の所保留にしている。

吸血鬼になった事で性欲が増しているがその分女性を傷付ける輩を嫌う気持ちも強くなっている。

幼馴染であるイリナに対し人一番の好意を持っているが他の女性（特に触手姫覚醒組）にも好意を持っているハーレム思考の持主。（これは女性を悲しませない為の唯一の方法だと納得している）

原作組と会う以前より「万事屋」を営み様々な依頼を完遂させ生計を建てている。

神からハイD世界を滅茶苦茶にしようとする屑転生者の駆逐も承っている。

「己が楽な方法を取って他人の人生を滅茶苦茶にした」とし天界の現長であるミカエルを毛嫌いしている。

特典能力

・ガンxカタ戦法 ブサイク作品の一作である「GUNxKATANAINonHumanKiller」の主人公時原姫菜の扱う見敵必殺な戦法。

・蟲 ブサイク作品「蟲使い」において登場する怪蟲。
間違ってもFateの蟲ではない。

一匹一匹の力はそこまで強くはないが集団での攻撃はかなり強い。
比較的生産は低コストで科学プラントでの繁殖を可能とした。

・獣魔蟲 蟲使いのパラレルワールド扱いとなる「EXSTRAV

AGANZA―蟲愛でる少女「蟲狂伝」に登場する伝説の蟲で本来は蟲の村の掟により封印されているが本今作ではそんな村は無論存在していない為に全六体の獣魔蟲が降臨する予定。

尚、孵化させるには「苗床」の母体者が必要であるが過度な行為は必要としない。

・刻凍る果ての獣魔

産まれて最初はかなり臆病な性格だが成長すると変化能力を持つ様になりとんでもない強さを誇るようになる芋虫型の獣魔蟲の内の一体。

母体者に一番良く懐く。

作品内では蟲くんの愛称で親しまれている。

母体者はイリナ。

・陽燃ゆる果ての獣魔

揚羽蝶型の獣魔蟲の一体。

尚、刻凍る果ての獣魔以外の獣魔蟲の事は作品内では存在していません。としかされず未だ不透明な為名称能力共にオリジナルである。

恐らくはFD「AGETHA」に登場するのがコレではないかとブサイクファンの中で噂されている。

鱗粉で相手を混乱、痺れに至らせる事が出来る。

母体者は現在未定。

・真理滅する果ての獣魔

蜂型の獣魔蟲の一体。

かなり獰猛な性格でありたまに母体者をも攻撃対象にする事があつて為獣魔蟲の中ではトップクラスの危険度を誇る。

母体者はユーリア。

・毒楽欲する果ての獣魔

蠍型の獣魔蟲の一体。

刻凍る果ての獣魔と同じく臆病な性格をしているが芯は強い蟲である。

尾から抽出される毒は快樂毒、激毒の二種があり快樂毒は薬にもなり得る。

母体者はガブリエル。

・狂騒する果ての獣魔

蠅螂型の獣魔蟲の一体。

両手の鎌は触手の様に伸ばせる。

真理滅する果ての獣魔とは仲が悪くよく争い事を持ち込む困った蟲。

母体者は未定。

・永時の果ての獣魔

巨蜘蛛型の獣魔蟲の一体。

鋼鉄よりも硬い糸を吐き相手を拘束する。

母体者は未定。

・触手（ク・リトルリトル）

クトゥルフ神話を題材とした「ク・リトルリトルシリーズ」の能力者の総称。

動物にも発現する事がある。

力を使うには触手姫（ラブクラフト）と呼ばれる能力を持った人物の協力が必要不可欠である。

又瑠雨也は特典操作によりそれぞれの能力を有した指輪「トラペゾ（又はトロペゾ）ヘッドロンの宝珠」を単体で使用する事でも発現可能としている。（原作では不可能）

瑠雨也は現在クリオネ型の〈レー〉、眼球の様な植物型の〈チ〉、本型の〈ギ〉、鎧型の〈テ〉の触手となり戦う。

だが残りの〈コー〉、〈テユ〉、〈シン〉、〈レン〉の宝珠は神の不手際により現在行方不明でハイD世界に散らばってしまっている。

〈コー〉はレイナーレ、〈レン〉はロスヴァイセが持っていた。

特典以外の技術・能力

・超疑似電子体 瑠雨也が生前プレイした「終わる世界とバースデイ」の超疑似電子技術を再現した事で生み出される電子体。

主に裏世界や他の転生者の初対面相手に使われる。

・治癒部屋館

ブランド「バグシステム」の作品「死に逝く君、館に芽吹く憎悪」に

登場する内部に滞在する事でどんな傷でも癒せる力を秘めた部屋。

溜雨也は古館「七瀬邸」を買い取り改装し住家とし、自身の血を館全体に浸透させた事でこれを再現させた。

・連血鎖刻鞭剣（ブラツデイル・ザ・チーインウィップソード）

溜雨也に宿っていた本作オリジナル神器。

本来ならば存在しない十四番目の神滅具に分類される。

使用者又は第三者の血を染み込ませ鎖の鞭化させる剣。

禁手は自らの体に血の鎖を絡ませその爆発的なパワーを解放させる「ブラツデイル・ザ・チーインマインダー」。

介入キャラ

「Mind eadBlood」支配者の為の狂死曲」登場

園原真由

茶髪ツインテールの純血吸血鬼の美少女。

自由奔放な性格で面白い事が好き。

ハイD世界ではよく溜雨也と行動を共にしている。

園原麻奈

真由の妹。

普段は天然温厚であるがその容姿とは裏腹に物凄く腹黒い性格を隠しもつていて戦闘の際にはそれをいかになく発揮させ周囲を唾然とさせる事もしばしばである。

榊悠香

マイブラ原作では吸血鬼ハンターであるがハイD世界では天使殺しとなった少女。

ミカエルが引き起こした聖書の神のシステムエラーにより暴走した天使に唯一の肉親である父親を惨殺されてしまった事で天使に激しい憎悪を抱いている。

溜雨也とはミカエルを憎む同士で戦友。

半吸血鬼でもある。

使用神器は十五番目神滅具である自身の血を弾丸と化し放つ三日月の装飾がされた血統銃「ブラツデイル・ルナバスター」

禁手は弾丸を自らに撃ち込みパワーを引き出す「月血の狂死曲」。
佐伯ありさ

七瀬邸で働くメイドさん。

よく真由達の玩具と化されいじられている。

唯一の非戦闘キャラ。

田上信吾

コワモテな風貌の刑事。

殺人事件に関与するのが只の人間ではない事に気が付き追う事に情熱を燃やす。

溜雨也達とはよく鉢合わせする。

神器使いにも目覚めるが彼はあまり戦いを好む性格ではない。

使用神器は十六番目神滅具、二対の超電鋸「デュアルブラッド・チエーンソー」

禁手は仮面を被ったもう一人の人格を作り出す「田上流格闘術」。

「GUNxKATANA—NonHumanKiller」登場

時原姫菜

ピンクツインテール巨乳美少女。

幼少の頃に弟である電をミカエルに誘拐されてしまった事で悠香同様に天使絶対殺すマンと化している。

使用神器は十七番目神滅具、見敵必殺銃剣「ガンカタナ」。

禁手は無数の銃火器を召喚し撃ち放つどこぞのA.U.O.の様な技である「ゲートオブガンカタナ」。

時原電

半ノンヒューマンの青年で姫菜の実弟。

ハイD世界では彼の超能力に目を付けたミカエルによって誘拐され現在教会側に身を置いている。

記憶を操作され姫菜との記憶が封印されてしまっている。

サクラコ&ミツルコ

ノンヒューマンの美少女姉妹。

電と共に現在協会側にいる。

フリードとは年下の幼馴染関係である。

「蟲使いシリーズ」登場

ユーリア

ハイD世界ではバルパー・ガリレイの聖剣実験によって引き起こされた暴走事故で負った怪我により体の半身近くがサイボーグ化を施された藍色ツインテール美少女。

木場裕斗とは幼馴染で彼と同じく聖剣とバルパーを憎んでいたが聖剣事件後は悠人と恋人同士となる。

事故の際偶然通りがかった瑠雨也により救出され彼から渡された真理滅する果ての獣魔の母体者で唯一扱いこなせている。

使用神器は十八番目神滅具、脚型神器である聖脚「セイントレッサー」。

禁手はイツセーの持つ赤龍帝の籠手鎧と同じく鎧を纏う「セイントロンド」。

しかしサイボーグの体にかかなりの負荷がかかってしまう為あまり使われない。

「Before Dawn Daybreak」深淵の歌姫」登場

レオノーラ

種族問わず万人を魅了する歌声を持つ美少女。

幼い頃は研究機関に囚われており、彼女に魅了されたミカエルが誘拐を企てたが彼女の救出を依頼された瑠雨夜によって阻止される。

以降は七瀬邸で元気に暮らしている。

ライザーに好意を持たれており彼女もそれを素直に受け入れている。

「ク・リトルリトルシリーズ」登場

ランディ

〈チ〉の触手能力を持ち人語を話す雄のゴールデンレトリバー。

ハイD世界ではケルベロス化もしている。

瑠雨也や一誠に負けず劣らずのスケベ犬で事あるごとにガブリエルの無知に漬け込んで彼女にセクハラ紛いの事をしている為お仕置きされる事もしばしば。

ヒバゴン

UMA指定されている謎の生物。
触手姫にも勝る怪力を持っている。
現在行方は知れない。

「ゴア・スクーリリングショウ」登場

ゴア・スクーリリングショウ

この世の者とは思えぬピエロの様な姿形をしローブの中に無数の触手を持ったかなり独特な喋りをする異形。

原作ユカ√トウルーエンドの際に要石の効力を受け風化したが無駄ウスによつてハイD世界に呼び寄せられた為性格は若干緩和されているが宿主が嫌う者達をおちよくる人形劇や女性を喰らう食癖は健在。

教会を追放された直後のアーシアと出会い宿主となつた事で彼女を大切に見守り時には戦う超ナイスガイ。

原作では万人に視えていたが本作では必要性の無い時には姿を消している為普通の人間や力の弱い異種族には彼の姿が視えない。

唯一の弱点となる要石やとあるのそげぶ等の対異能力者がこの世界には今の所存在しない為真正銘の無敵。

何故か車を運転出来る。

上位種

「死に逝く君、館に芽吹く憎悪」に登場する人間の皮を被つた恐ろしい化物でどうしてかハイD世界に介入してきた存在。

三大種族ですらも彼等に勝てる者は少なく溜雨也達が対応にあつたっている。

溜雨也以外の転生者や神

兵藤兜誠

イツセーの双子の弟として転生してきた少年。

特典は「イツセーの赤龍帝の力を奪う事」で邪魔なイツセーに対する冤罪を流布し彼の評判を貶めた張本人。

そして彼の唯一の味方をしたイリナの事が勘に触り他の転生者に彼女を襲わせようとした自己中心的な真正銘の屑である。

真の赤龍帝ではないが故に悪魔に転生した後も上手く力を扱えず

又グロテスクなモノが大嫌いでブサイク作品知識を持ち得ていなかった事もあり溜雨也と成長したイツセーにフルボッコにされた後冥界の裁判にて裁かれ投獄された。

新谷荒耶

「アクセルワールド」の加速の力を特典とした転生者。

兜誠に同調しイリナをレイプしようしたがギリギリの所で溜雨也に阻止され彼に挑むも彼もまた知識を持ち得ておらず返り討ちにあい偶然通りがけた信吾に現行犯逮捕され刑務所に投獄されている。

白野芽亜

溜雨也が生前事故から庇おうとした女子高生だった内の一人で当たり所が悪く死んでしまったが神の計らいで転生した少女。

特典は「ブラック★ロックシューター」の力。

又へテの触手姫の力にも覚醒している。

溜雨也とは小学生時代に出会い真実を聞いた。

生前助けられた事もあってか彼に好意を抱いている。

屑神

兜誠達屑転生者の無茶な要求を簡単に飲み転生させた張本人の神。

現在はその悪事が白日の下に晒され神の力を剥奪されそうになったがハイD世界に逃げ込みミカエルを裏で操る。

ゼウス神

溜雨也を含む良識な者達を転生させる力を持った老神。

ハイD原作組との関係

紫藤イリナ

一誠、溜雨也の幼馴染の少女。

屑転生者によって危うく犯されそうになった所を溜雨也に助け出されその際彼が普通の人間ではないと知る。

彼から渡された刻凍る果ての獣魔の母体者となりとても可愛がっている。

へレーの触手姫の能力を発現しており再会後は彼をサポートする様

になる。

溜雨也のハーレム思考を理解していたので彼に好意を持つ他の女性とも仲良くしている。

溜雨也からミカエルの真実を聞いていた為、転生天使になっていない。

兵藤一誠

原作主人公の変態ではあるが屑転生者の企みにより一時居場所と赤龍帝の力を奪われてしまう。

唯一彼の味方であったイリナや溜雨也の協力を経て成長する。

尚悪魔への転生は溜雨也と自身が屑転生者をボコツた後改めてリアスの眷属として生まれ変わり赤龍帝の力を取り戻した。

彼の使い魔はティアマツト。

アーシア・アルジエント

聖女として崇められていたがある日、悪魔を癒したとしてミカエルに異端認定され教会を追放されはぐれシスターとなるがその直後にゼウスに呼び寄せられていたゴアと出会い彼の宿主となった。

ゴアの事をとても気に入りに信頼している。

イツセーもしくは他転生者とのカップリング未定。

フリード・セルゼン

原作でははぐれ神父であるが本作ではミカエルの行う事に疑問を持った事で破門された。

その際に彼は怒って天閃の聖剣を持ち出しており教会に追われる身となる。

クレイジーな喋りは健在であるがそれ以外は普通。

サクラコ、ミツルコとは幼馴染にあたる。

ミカエルの真実を聞き、自分の抱いた疑問は間違っていないかったとして溜雨也達に協力している。

溜雨也に頼まれ天閃の聖剣をわざとコカビエルに渡し統合させ渡されそうになるが真実を知る彼は受け取りを拒否、種明かした後悠人、ユーリアと共にエクスカリバーを破壊した。

天閃の聖剣を失いはしたが裕斗から友情の証として聖魔剣を受け取り、以降はサクラコ、ミツルコをミカエルの魔の手から救う為に行動する。

オーフィス

禍の団の首領であったがイツセーと偶然出会い彼に興味を持った為退団する。

以降は黒歌と共に七瀬邸で過ごしている。

他転生者もしくはイツセーとのカップリング予定。

ロスヴァイセ

ヴァルキリーであったがミカエルに不信感を抱き後日資格を失う前に真実を知り七瀬邸に身を置いた為無事。

溜雨也に惹かれている。

後に〈ヘレン〉の宝珠を拾い触手姫に覚醒した。

ガブリエル

天界唯一の良識天使でミカエルの横暴振りに頭を抱えていたがある日、溜雨也と出会い好意を抱いた事で彼女も墮天させられてしまった。

以降は七瀬邸に身を置きありさと共にメイドも勤めるようになる。

〈チ〉の触手姫に覚醒している為同じ〈チ〉の力を持つランデイも可愛がる様になる。

墮天した影響か性的な事に興味を抱き溜雨也から毒楽欲する果ての獣魔を渡され母体者となり大分間違った知識を覚えており、ランデイ相手に実践する事がある。

黒歌

他転生者もしくはイツセーとのカップリング予定。

グレモリー眷属含む悪魔勢力

リアス・グレモリー

屑転生者である事に最初は気が付かず兜誠を悪魔転生させるが彼に少なからずも不信感を抱いていた。

兜誠が投獄されて以降は改めてイツセーを眷属として迎え入れた。

溜雨也達転生者組とは同盟を結んでいる。

他転生者とのカップリング予定。

姫島朱乃

リアス同様に兜誠に若干の不信感を募らせていた。後は同じ。

他転生者もしくははイツセーとのカップリング予定。

塔城小猫（白音）

リアス、朱乃と同じ。

他転生者もしくははイツセーとのカップリング予定。

木場裕斗

本作ではユーリアと幼馴染の関係。

聖剣実験の際に起きた事故で彼女が死んだと思ひ込むが思いがけぬ再会を果たし共に同胞の敵討ちを望む。

聖剣事件以降はエクスカリバーを越えた事で成長しユーリアと恋人同士の関係となる。

ギヤスパー

同じ吸血鬼の力を持つ溜雨也に弟子入りする。

ゼノヴィア

原作と立ち位置はほぼ同じだが、自身よりも強いイリナを尊敬している。

一方で蟲くんに対しては若干の苦手意識はあるものの嫌ってはいない。

サーゼクス

リアスの兄で現魔王。

過去の大戦で割り込んできた上位種とも戦った事があり彼等に敗北した苦い経験を経て以降彼等の事をよく知り対抗する術を持つ溜雨也達に討伐を依頼する。

ライザー・フェニックス

過去に上位種と遭遇し戦って追い込まれ滅されそうになった経験を経て成長。

許嫁であったリアスに対しては好意を持っておらず御家同士の政略結婚話を潰す為にレーディングゲームを持ち掛け引き分ける。

溜雨也が部室に連れてきていたレオノーラに一目惚れし暇を見つけては七瀬邸を訪れ彼女をデートに誘っている。

レイヴェルらフェニックス眷属
レイヴェル

シスコンハーレム駄目兄貴であったライザーが生まれ変わった事に少々困惑し淋しさを感じていたがレオノーラとの恋が実る事を応援する。

他転生者もしくはイツセーとのカップリング予定。

イル&ネル

駄目王（これ以上はいけない）であったライザーが生まれ変わりレイヴェル同様困惑するが慕っている。

同時に偶然はぐれ悪魔討伐に居合わせた信吾に好意を抱くようになる。

他眷属はほぼ原作同様予定で他転生者とのカップリング予定。

セラフォル・レヴィアタン

サーゼクスと同じ。

匙元士郎

イツセーの悪評に振り回されるが彼の良さを知り溜雨也共に悪友となる。

その他のシトリー眷属は原作と同様。

堕天使勢力

アザゼル

サーゼクスらと共に割り込んできた上位種に応戦するが敗北。後は原作と同様。

レイナーレ

原作ではイツセーを殺しアーシアの神器を抜き取った後消し飛ばされたが本作では彼女のポジションを彼女の部下であったドーナシーク、カラワナーの暴走に振り回された。

溜雨也に助けられて以降彼に好意を持つ。

実はヘコーの宝珠を拾っており触手姫として覚醒していた。
ミツテルト

レイナーレと同じくドーナシックらが起こした暴走に振り回される。

事件解決以降はレイナーレと同じく溜雨也に好意を持つ。

〈ギ〉の触手姫に覚醒している。

ドーナシック、カラワーナ

本作では完全敵。

上司であったレイナーレと仲間であったミツテルトを裏切り暴走したが溜雨也達とアーシアの願いを受けたゴアに殲滅された。

あ、カラワーナはゴアがおいしく頂きました。

ヴァーリー

原作とほぼ同様に戦闘狂だが常識は心得ており禍の団には所属していない。

天界勢力

ミカエル

本作では聖書の神の残したシステムをきちんと修正せずに楽な方法を取り、他人の人生を狂わせたとして唯一のアンチ対象。

電やサクラコ&ミツルコ姉妹らノンヒューマンの力を使って自身への信仰を保とうとしている。

アーシアに憑いたゴアに対し恐怖を抱きなんとか殲滅しようとする。
論む。

無駄な足掻きなのに…。

尚ガブリエル以外の他の天使は原作と同様。

禍の団勢力

? 退団したオーフィスに代わって首領となった人物。

恐らく転生者の筈だが現在素性不明。

旧校舎のディアボロス編

E P I 「転生を果たしたけど…」

S i d e 瑠雨也

「…」

俺は「ハイスクールDxD」の世界に転生した。
家族は両親のみ。

俺は親に迷惑をかけないようにと早くに一人立ちし転生特典を駆使し「万事屋」をして生計を建てていた。

競売にかけられていた古い館を買い取り改装、「七瀬邸」と命名し日々を過ごしていた。

でもそれまでに原作とは違う点がいくつかあった。

一つは俺が頼んだ「BlackCyc」関連作品のキャラが全員とまではいかないが存在している事だ。

まさか、その作品の一つである「BeforeDawnDaybreak」深淵の歌姫」に登場したメインヒロインの一人である歌姫、レオノーラの救出依頼を受けた時は流石に驚いたぜ…。

二つ目は原作主人公である兵藤一誠ことイツセーに双子の弟、兵藤兜誠が存在していた事だ。

だがこれはすぐにその弟が俺と同じ転生者である事は分かった。

でもまさか主人公の座と力までもが奪われていたとは予想外だった。

そしてその転生者が流したイツセーの悪評に唯一振り回されなかった俺達の幼馴染である紫藤イリナにも転生者の魔の手が迫ろうとしていた。

「い、嫌！…」

「へっへっまさか男の恰好しているイリナさんと遭遇するなんてなんて俺はラッキーなんだ！」

この男こそ三人目の転生者である顕谷 荒耶である。

彼は男装しているイリナを偶然見つけ彼女を襲おうとしていた。

「何をしている！」

「其処までだ屑野郎！」

「だ、誰だ!?!」

俺は一早くイリナのピンチに気が付きそして偶然通りがかった刑事の田上 信吾さんと一緒に屑転生者を取り抑えようとする。

「チツ!こうなったら…「フィジカル・バースト」！」

「ムツ!」

どうやらコイツの特典は本来必要なニューロリンカー等の端末無しで「アクセルワールド」の加速の力を使える能力のようだった。

「どらあつ！」

だが笑止!

「Mind ead Blood」支配者の為の狂死曲」の主人公である吸血鬼、七瀬しずるの身体能力を得ている俺の前ではどれだけ加速しようとも無意味!

最ツ高にハイって奴だああ!

「ぶげえつ!?!……」

俺の渾身のキックを受けてフィジカルバーストが解除された転生者は目を回しぶっ倒れる。

そこを田上さんに取り押さえられ連行されていった。

「溜雨也君?……」

「すまなかったな紫藤、今迄黙っていて…俺は普通の人間ではない吸血鬼なんだよ…」

俺は自身の素性の全てをイリナに明かした。

S i d e イリナ

「…」

私は何故か男装していた私が女性だという事を知る不良に危うく襲われかけた。

そこを幼馴染の一人である館風 溜雨也君に助けてもらったのだ。

でも不良をのした時の彼は何処か普通じゃなかった。

嫌、不良も急に動きが早くなっておかしかったけど。

だけどその疑問はすぐに彼の口から聞けた。

「自分は吸血鬼」だと…。

そして彼が次に口にした言葉で私は愕然とした。

「聖書の神は既に過去の大战で亡くなり、その部下である現天界の長、天使長ミカエルが神の残したシステムの不具合を直さずに使用しているせいで人生を狂わされてしまった人達がいる」とも…。

私が生まれてから今迄信じてきたモノはなんだったんだろうか？
…そう考え出すと途端に涙が溢れ出てきてしまった。

すると彼が「何、これからは己の目で見て信じられるものを見つけ出していけば良い」と言ってくれたのだ。

私はまた感動の涙が溢れてきていた。

「ちよ!?…待ってる良い物があるぜ」

「何これ?…」

泣き出した私に溜雨也君は慌てたのか背負っていたリュックサックから鶏の卵よりも一回り程大きい卵を私の手の平に乗せてきた。

「悪魔払いの修行に行く予定なんだろう？」

此奴は俺からイリナ、君への贈り物だよ。

大切に育ててくれよ?」

「…うん!…ありがとう溜雨也君!」

どうやら私の悪魔払いの修行の旅の御守にと彼がプレゼントしてくれたのだ。

私はたまらずお礼を告げ旅立った。

Side 溜雨也

「さてと…紫藤には刻凍る果ての獣魔の卵を渡したしこれで彼女は大丈夫な筈だ。

…後は…」

どうしてこうなった!?

「?…どうかしましたか旦那様…?」

イリナとの一時の別れから数年後、俺は何故かミカエルの仲間であり原作一の巨乳を持った天使長ガブリエルに抱き着かれていた。

けれど彼女は墮天使になっていた。

あの糞ミカエルめ…俺への純粋な恋心を持った彼女までをもシス

テムの邪魔扱いし墮天させたようだ。

あの糞天使の事だ。アーシアも既に教会から追放されてしまっているに違いない。

良し：殲滅決定！

だがその前に兵藤兜誠を排除しイツセーの赤龍帝の力を一刻も早く取り戻させる事が最優先事項である。

先は長いな…。

Side 兜誠

「へっへ…これでやってやったぜ……」

俺は兵藤兜誠。 兄である兵藤一誠の双子の弟としてハイD世界に転生を果たした。

俺が願ったのは只一つ！「イツセーの赤龍帝の力を奪う事」だ。

その願いは見事叶えられた筈だったが神器を宿した俺を殺しに来たのがレイナーレではなく彼女の部下のドーナシークだったのには驚いた。

まあこれくらいのイレギュラーは計算の内である。

俺はワザと彼に殺されまんまとリアス・グレモリーの兵士眷属として二度目の転生を果たした。

だが：一向に赤龍帝の籠手へブーステッドギアの本래の力は覚醒しなかった：何故だ!?

「兵藤兜誠だな？」

「誰だ!？」

「俺か？俺はお前みたいに本래の宿主から力を奪い、主人公になった気にいる奴等を駆逐する為にきた」

「まさかテメエは!?!…」

そこには俺と同じ転生者がいたのだ。

すぐにブーステッドギアの発動を試みるもやはり発動しなかった。

「馬鹿なのかお前は？」

ウエルシュドラゴン、ドライグに真の赤龍帝と認められていないア
ンタが力を扱える筈が無いだろうが！

「なん?!?!…」

転生者の言葉に反論しようとした瞬間俺の左腕はいつの間にか千切れていた。

「ぎゃああああ!?…」

激痛が走り俺は悶え苦しむ。

「ツマラねえな…そんなんだからドライグに認められないんだぜ？」

あ、後イツセーに被せていたアンタの悪事は俺が白日の下に晒してやったからな！」

「なっ!?…て、テメエ…」

「ん?どうやって俺がアンタの悪事を暴いたかって?…それはコイツ、〈チ〉の触手〈ク・リトルリトル〉を使ったからさ！」

転生者が告げた言葉に俺は驚愕し彼が周囲に浮かせた緑色の眼球の形をした植物の様な何かを見て俺は気絶してしまった。

あんなの知らない…。

「俺の力、返せよ…。」

そして俺はいつの間にか目の前にいた兄によってポッコポッコにされた。

Side 溜雨也

「あつけないな…まあ俺みたいな存在は稀有だよなあ…。

後の処理はサーゼクスの奴に任せるか」

俺は自身の力の一つ、〈チ〉の触手〈ク・リトルリトル〉の力を使い屑転生者兵藤兜誠を完膚無きまでに叩きのめし彼から赤龍帝の力を奪還しイツセーに返した。

事情を知ったりアス・グレモリーは彼をすぐさま転生させてくれ俺と同盟関係を結んでくれもした。

だけど又もや別の問題が降りかかってきた。

「上位種…それにヒバゴンだど!?!…」

本来この世界に存在しない筈の化物達の名をサーゼクスから聞いて俺は頭を抱えていた。

恐らくどこぞの屑神が暴走して彼等をこの世界に招き入れてしまったか…。

とにかく奴等が本格的に侵攻を開始する前に殲滅させなければこ

の世界は破滅を迎える事になってしまふ。

恐らくサーゼクスの義理の息子で現白龍皇であるヴァーリーでも
奴等には苦戦するだろう。

それぐらいヤバイ奴等なのだ。

ならば俺が取るべき方法は二つ。

原作組の大幅な強化。

そして他にこの世界に転生してきた良識の者達の協力を得る事だ。

「神様の不手際で〈コー〉、〈テュ〉、〈シン〉、〈レン〉のトラ（トロ）ペ
ゾヘドロンの宝珠も行方不明のままだし早く探さないと!…」

俺は新たにそう決意し再びの原作介入を行う手筈を整えていた。